

# らいてうの家 通信 14号

…平和・協同・自然のひろば…

2009. 7. 1

らいてうの家

〒386-2201 長野県上田市真田町 長十の原1278

TEL/FAX 0268-74-1385

NPO 平塚らいてうの会 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-11-9-303

TEL/FAX 03-3401-6383

## これからのイベントご紹介

みどりが一番美しく、野鳥のさえずりも山野草も高原の風も心地よい季節、どうぞお出かけください。詳しくはイベント案内やチラシをご覧ください。

7月 5日	13時半～15時半	子ども祭り	会場：薬草園
7月12日	13時半～15時半	戦争体験を語る会	会場：らいてうの家
8月23日	14時～15時半	歌手佐藤真子「らいてうをうたう」	会場：らいてうの家
9月12日	13時～16時	講演と映画の会 早乙女愛「私と子どもと青い海」	会場：らいてうの家
9月20日	14時～15時半	宮島満里子「紫式部からのメッセージ」	会場：らいてうの家
9月26日	10時～15時	森のめぐみ講座「笹刈りと郷土料理・秋の高原散策」	

## らいてうの森の近況報告！ そして森のこれから

2006年にらいてうの家オープンのに始めた植樹もことしで4年目となりました。この間に、180人の方が植樹基金に募金を寄せられ、長野県からの助成も得てブナを始め、キハダ、クリなど1000本の苗木を植えることができました。夏から秋にかけて、苗木を追い越して成長する熊笹を刈り、次年度の植樹地の熊笹を刈りと、手を入れ続けたらいてうの森は、春にはタラの芽の採れる小さいけれど涼やかな森の形ができました。

来春には、植樹地を奥に広げて、ひとつのまとまりとして当面の植樹活動を終え、再来年以後は、森に手を入れ、森に親しみながら、人と自然との命の共生を探る場としたいと考えています。当面、植樹としては、来年が最後になるのでこの機会に、なるべく多くの方々に苗木のオーナーになっていただき、らいてうの森を見守り、育てる仲間になっていただけたらと考えています。一口1000円で、来春まで、常時受け付けます。また、今まで植樹に参加していただいた方には、是非、森と苗木の様子をみにおいでください。刈った笹は、まだ絶える所までは行かず、足元に笹の切り口が残っているので、なるべく短く刈ってみなさまに歩きやすくしたいと思います。

この秋、9月26日(土)には、来年の植樹のための熊笹刈りを予定しています。笹を刈るのは熟練の方にはお願いしますが、刈った笹を集める笹掻き、笹寄せの仕事がとても大切で人手があると早く楽しく仕事が進みます。お昼には、薬草園で、美味しい郷土料理もあじわえます。美味しい食事の後は爽やかな秋の高原ウォーキングを予定しています。気の早いキノコはもう顔を出していることでしょう。森と人との共生を実感できるこの地へ、ぜひおいでください。



## 6月20日は「らいてう講座」でした。

らいてう講座「九条元祖の男性群像」は、諏訪や東京品川などからのグループで大盛況、今年の展示でもとりあげた「男も訴えた平和」のテーマに、興味しんしんでした。米田さんは「らいてうの平和思想は戦後の付け焼刃ではなく、第一次大戦後母親になって以来」といい、「そのらいてうと共通の平和を訴えた男性たち」として、田中正造の「無戦主義」、成瀬仁蔵の「帰一思想」、石橋湛山の「小国日本主義」、宮沢賢治の「鳥の北斗七星」、恒藤恭の「世界民」などを紹介、「12人のイイ男」と笑わせながら現代の情勢にもふれ、「今、らいてうさんの出番」とむすびました。

当日、新著『恋する女』を持って詩人の高良留美子さんが参加、お母様の高良とみとらいてうの親交の一コマを語ってくださいました！



### 続 病室のらいてうさん —私の遠い記憶から—

小林綾枝（上田市在住）

会ニュース「病室のらいてうさん」を読んで私も一言。私たち姉妹は大竹せいさんに大変可愛がられていました。せいさんはソビエトロシア関連の出版や文献を扱うナウカ社の故大竹博吉氏夫人で、私たちと同じく長野県出身。何時もお宅に押しかけては革命直後に入露された時の状況を伺ったりご馳走を頂いたりしていました。その大竹せいさんがご高齢でもあり、入院されたとき私は頻繁にお見舞いに伺うことはできなかったのですが、妹の博枝は学生だったこともありよく伺っていました。その折、らいてうさんも入院されていて、「せいさん、頑張りましょうね」「せいさん、元気出してね」と見舞われたそうです。居合わせた妹はその度に「何と美しく、上品な方なのだろう」と感じ入りました。ご自分も入院中なのだから決して体調が良いわけではありますまいに。それでも友人を思い励まして枕辺を見舞われたらいてうさんでした。

いま一つ。同じ病院で看護婦（当時のまま）をしておられた伏島和枝さんと偶然お知り合いになりました。彼女の記憶でも「優しい上品な方」。特に印象に残るのは、時々お見舞いに見える「高齢の男性」で、彼女の目にはご高齢に見えたそうですが、博史さんであるはずはないので、あの方がご子息の敦史さんだったのかしらとのことです。いらっしゃると何時も親密そうにらいてうさんと話しておられた姿が印象に残っているそうです。

どれもこれも遠い記憶ですが、ちょっとでもらいてうさんとのゆかりを記しておくのも私たちの務めかもしれません。縁の糸のきれっぱしの聞き書きです。

### 「家」の庭にカモシカさんが！！

6月14日、娘と同年の若いお当番さんとふたりでお話していたら、峰の原のペンション四季の案内で3人の方が来館。受付をしていただき、展示や和室、図書室の案内をしていたところ。「カモシカだ！」の声。「えっ？」と見たときには姿はなくて残念！家の庭で草を食べていたとか。また会えるかな。

### オープンのときコマうちした

#### シイタケ！

直径8～10センチぐらいの大きなシイタケ。お昼に頂きましよう、庭へおりたら、あるわあるわ、土曜日のお当番で分けて、日曜日のお昼にアスパラと新玉ねぎと一緒にさっと炒めて頂



ました。肉厚でおいし！中くらいのが月曜日にはさらに大きくなって、「来週まで置いておけないね」とおみやげに。まだまだ次々出ていましたよ～。（さ）

### ご寄付続々「らいてうの灯を消さないで」にただ感謝！

「運営がピンチ」とご寄付のお願いをいたしました、各地から大口小口のご寄付が届きはじめ、感激しています。みなさまの熱い思いに背中を押されました。2011年『青鞥創刊百年』を控え、「百年の女たちのころざし」を現在（いま）に生かすためがんばります。どうぞこれからもよろしく！

NPO平塚らいてうの会

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-11-9-303 TEL・FAX 03-3401-6383

ゆうちょ銀行 口座 00150-9-553046 NPO平塚らいてうの会